

CSS組版について分からないことがあったので村上さんに訊いてみる。

よっぽど古いお話なんで御座ございますよ。私の祖父じじいの子供の時分に居りました、「三さん」という猫なんで御座ございます。三毛みけだったんで御座ございますって。何でも、あの、その祖父じじいの話に、おばあさんがお嫁に来る時に――祖父じじいのお母さんなんで御座ございましょうねえ――泉州堺せんしゅうさかいから連れて来た猫なんで御座いますって。

随分ずいぶん永く――家に十八年も居たんで御座ございますよ。大きくなっておりましたそうです。もう、耳なんか、厚ぼったく、五分ぶぐらいになっていたそうで御座ございますよ。もう年を老とってしまっておりましたから、まるで御隠居様のようになっていたんで御座ございましょうね。

冬、炬燵こたつの上にまあるくなって、寐ねていたんで御座ございますって。

そして、伸のびをしまして、にゅっと高くなって、「ああしんど」と言ったんだそうで御座ございますよ。

屹度きつと、曾祖母おおばあさんは、炬燵こたつへ煖あたって、眼鏡を懸けて、本でも見ていたんで御座ございましょうね。

で、吃驚びつくり致しまして、この猫は屹度きつと化けると思ったんです。それから、捨てようと思いましたがけれども、幾ら捨てても帰って来るんで御座ございますって。でも大人おとなしくて、何なんにも悪い事はあるんじゃないやありませんけれども、私の祖父じじいは、「口を利くから、怖くって怖くって、仕方がなかった。」って言うておりましたよ。祖父じじいは私共の知っておりました時分でも、猫は大嫌いなんで御座ございます。私共が所好すきで飼っておりましたが、

「猫は化けるからな」と言ってるんで御座ございます。

で、祖父じじいは、猫をあんまり可愛かあいがっちゃ、可いけな可いけな言うておりましたけれど、その後この猫は化けるまで居た事は御座ございせん。

よっぽど古いお話なんで御座ございますよ。私の祖父じじいの子供の時分に居りました、「三さん」という猫なんで御座ございます。三毛みけだったんで御座ございますって。何でも、あの、その祖父じじいの話に、おばあさんがお嫁に来る時に――祖父じじいのお母さんなんで御座ございましょうねえ――泉州堺せんしゅうさかいから連れて来た猫なんで御座いますって。

随分ずいぶん永く――家に十八年も居たんで御座ございますよ。大きくなっておりましたそうです。もう、耳なんか、厚ぼったく、五分ぶぐらいになっていたそうで御座ございますよ。もう年を老とってしまっておりましたから、まるで御隠居様のようになっていたんで御座ございましょうね。

冬、炬燵こたつの上にまあるくなって、寐ねていたんで御座ございますって。

そして、伸のびをしまして、にゅっと高くなって、「ああしんど」と言ったんだそうで御座ございますよ。

屹度きつと、曾祖母おおばあさんは、炬燵こたつへ煖あたって、眼鏡を懸けて、本でも見ていたんで御座ございましょうね。

で、吃驚びつくり致しまして、この猫は屹度きつと化けると思ったんです。それから、捨てようと思いましたがけれども、幾ら捨てても帰って来るんで御座ございますって。でも大人おとなしくて、何なんにも悪い事はあるんじゃないありませんけれども、私の祖父じじいは、「口を利くから、怖くって怖くって、仕方がなかった。」って言うておりましたよ。祖父じじいは私共の知っておりました時分でも、猫は大嫌いなんで御座ございます。私共が所好すきで飼っておりましたが、

「猫は化けるからな」と言ってるんで御座ございます。

で、祖父じじいは、猫をあんまり可愛かあいがっちゃ、可いけな可いけないうて言うておりましたけれど、その後この猫は化けるまで居た事は御座ございません。

よっぽど古いお話なんで御座ございますよ。私の祖父じじいの子供の時分に居りました、「三さん」という猫なんで御座ございます。三毛みけだったんで御座ございますって。何でも、あの、その祖父じじいの話に、おばあさんがお嫁に来る時に――祖父じじいのお母さんなんで御座ございましょうねえ――泉州堺せんしゅうさかいから連れて来た猫なんで御座いますって。

随分すいぶん永く――家に十八年も居たんで御座ございますよ。大きくなっておりましたそうです。もう、耳なんか、厚ぼったく、五分ぶぐらいになっていたそうで御座ございますよ。もう年を老とってしまっておりましたから、まるで御隠居様のようになっていたんで御座ございましょうね。

冬、炬燵こたつの上にまあるくなって、寐ねていたんで御座ございますって。

そして、伸のびをしまして、にゅっと高くなって、

「ああしんど」と言ったんだそうで御座ございますよ。

屹度きつと、曾祖母おおばあさんは、炬燵こたつへ煖あたって、眼鏡を懸けて、本でも見ていたんで御座ございましょうね。

で、吃驚びつくり致しまして、この猫は屹度きつと化けると思ったんです。それから、捨てようと思いましたがけれども、幾ら捨てても帰って来るんで御座ございますって。でも大人おとなしくて、何なんにも悪い事はあるんじゃないありませんけれども、私の祖父じじいは、「口を利くから、怖くって怖くって、仕方がなかった。」って言うておりましたよ。祖父じじいは私共の知っておりました時分でも、猫は大嫌いなんで御座ございます。私共が所好すきで飼っておりましたが、

「猫は化けるからな」と言ってるんで御座ございます。

で、祖父じじいは、猫をあんまり可愛かあいがっちゃ、可いけな可いけないうて言うておりましたけれど、その後この猫は化けるまで居た事は御座ございません。

よっぽど古いお話なんで御座ございますよ。私の祖父じじいの子供の時分に居りました、「三さん」という猫なんで御座ございます。三毛みけだったんで御座ございますって。

何でも、あの、その祖父じじいの話に、おばあさんがお嫁に来る時に――祖父じじいのお母さんなんで御座ございましょうねえ――泉州堺せんしゅうさかいから連れて来た猫なんで御座いますって。

随分ずいぶん永く――家に十八年も居たんで御座ございますよ。大きくなっておりましたそうです。もう、耳なんか、厚ぼったく、五分ぶぐらいになっていたそうで御座ございますよ。もう年を老とってしまっておりましてから、まるで御隠居様のようになっていたんで御座ございましょうね。

冬、炬燵こたつの上にまあるくなって、寐ねていたんで御座ございますって。

そして、伸のびをしまして、にゅっと高くなって、

「ああしんど」と言ったんだそうで御座ございますよ。

屹度きつと、曾祖母おおばあさんは、炬燵こたつへ煖あたって、眼鏡を懸けて、本でも見ていたんで御座ございましょうね。

で、吃驚びつくり致しまして、この猫は屹度きつと化けると思ったんです。それから、捨てようと思いましたがけれども、幾ら捨てても帰って来るんで御座ございますって。でも大人おとなしくて、何なんにも悪い事はあるんじゃないやありませんけれども、私の祖父じじいは、「口を利くから、怖くって怖くって、仕方がなかった。」って言うておりましたよ。祖父じじいは私共の知っておりまして時分でも、猫は大嫌いなんで御座ございます。私共が所好すきで飼っておりまして、

「猫は化けるからな」と言ってるんで御座ございます。

で、祖父じじいは、猫をあんまり可愛かあいがっちゃ、可いけな可いけないうて言うておりましたけれど、その後この猫は化けるまで居た事は御座ございません。